

島根県内の機械加工業や金属加工業など約400社が組合加入する協同組合島根県鐵工会（松江市西津田1丁目、児玉泰州理事長）がこのほど、福岡市内で開かれた九州最大級の産業見本市にブースを出展し、島根のものづくり技術をアピールした。現地で得た情報を活用し、組合員企業の販路拡大につなげる。

九州最大級の産業見本市で ものづくり技術をアピール



サンプル製品を紹介する職員（左から1人目と4人目）

島根県鐵工会がブース出展

素材から完成品までの流れをイメージした島根県鐵工会のブース。福岡市博多区、マリンメッセ福岡



見 本市は10月13～15日にマリンメッセ福岡（福岡市）で開かれた。外注先を

探し求める業界関係者や新製品の情報を収集するメーカー担当者など、3日間で約1万5千人が来場した。

同組合のブース内は、「鋳物」「機械加工」「特殊加工」など八つのエリアを設けた。分野に応じて各2社からの協力を受け、県内で代表的なサンプル製品を展示。来場者に職員が特長を説明した。

素材から完成品まで一貫した流れをイメージして構成し

たブースで、個々の企業への受注はもちろん、島根県鐵工会が仕事の依頼を請け負うことで完成した一つの製品が生み出せる強みを訴求。ブースに立ち寄った約240社の担当者に組合員企業を紹介する冊子も配って存在感を高めた。今後、収集した情報を整理した上で、ビジネスマッチングにつなげる考えだ。

県外での展示会にブースを出展するのは初めてで、出展料など経費の一部は、しまね産業振興財団が交付する県の助成金を活用した。

組合員企業数は現在390社で、ピーク時の1994年と比べ約3割減となった。今年1月にスタートした中長期計画の中で企業支援を重点取り組みに掲げ、会員サポート推進室を新設。業界や企業の維持、増加を目指し、営業・経営・人材の面で支援する。

長期ビジョンで掲げる「ものづくり総合支援拠点」としての10年後の姿を見据え、理事を務める会員サポート推進室の奥野耕治室長（53）は「島根のものづくり技術を県外に発信する取り組みを継続的に行う。組合員企業の支援をより一層加速させていく」と強調した。（久保田康之）